

2021 年度(令和 3 年度)学校評価自己評価表

鳳 中学校区	校番 36	福山市立伊勢丘小学校
最終更新日		2022年(令和4年)2月18日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても、児童生徒が主体的に活動できるように、色々と工夫をした取組がなされている。 ・子供たちに思考力・表現力を付けるための内容に取り組んでいると感じる。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現する力について、「書くこと」は高まっているが、他者の意見を聞いて「自分の考えを話すこと」や「読解力」に課題がある。 ・体力づくりについて、課題を焦点化し、継続的に取組をしている。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>思考力・表現力 他者と関わる力</p>
		<p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的に考え、他者の考えを尊敬しつつ、自らの意見を主張することができる。 ・他者や集団のために、自ら考え主体的に行動できる。
		<p>中学校区として統一した取組等</p> <p>論理的に考え、判断し、他者の考えを尊重しつつ、自らの考えを表現する力を育てる。</p>

III 自校

<p>ミッション</p> <p>未来を拓くリーダー性を育てる ～ 教育を通して笑顔と感動を！ ～</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>.....リーダー性.....</p> <p>①生きて働く知識・技能 ②思考力・表現力 ③他者と関わる力 ④全力でやりぬく力</p>
<p>学校教育目標</p> <p>自ら学び 人間性豊かな子を 育てる</p>	<p>めざす子ども像</p> <p>① 知識をつなげて理解し、活用する子</p> <p>② 「なぜ？」を大切に、じっくり考え、決め、表現する子</p> <p>③ みとめ合い、協力して取り組む子</p> <p>④ あきらめず挑戦し、最後までやりぬく子</p>
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <p>○学習する中で、もっとやってみたいこと、知りたいことを深めようとする児童が多い。個々の学びの状況に応じて、自分で学習を計画したり、振り返ったりする力を伸ばす。</p> <p>○児童が自ら行事や委員会活動等を企画し、自分たちができることを主体的に進めようという意欲が高まった。課題に向け、周りの人と話し合い、何度でもチャレンジできる力を付ける。</p> <p>○自分で選んだ競技に参加する「伊勢リンピック」を実施し、楽しさを実感できたが、自分の力を伸ばすために学習を調整する力を付ける必要がある。</p> <p><授業></p> <p>○児童の「なぜだろう」「やってみたい」を意識した授業が増えている。</p> <p>○児童の「分かった」「面白い」がさらに増えるよう、多様な学びが展開できるカリキュラムを作成し、教材研究を深める必要がある。</p> <p>○児童の学習状況を把握し、児童の学びを深める教師の働きかけについて追究する必要がある。</p>	<p>研究</p> <p>テーマ 一人一人が輝く 多様な学びの創造 ～「分かる・できる・もっとやりたい」を生み出すカリキュラムデザインを通して～</p> <p>内容等</p> <p>○「個別最適な学び」と「協働的な学び」による多様な学びを生む単元のデザイン</p> <p>○教師のファシリテーターとしての役割</p> <p>○学習過程における児童の学びの評価</p>
	<p>めざす授業の姿</p> <p>児童一人一人が、多様な学習活動や学びの場で、「分かる・できる・もっとやりたい」と学びの楽しさや良さを実感する授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の「やってみたい」「自分で選ぶ・決める」が大切にされる。 ・児童が、他者と関わり合い、表現し合いながら、あきらめず探究する。 ・児童自身が、学習を振り返り、自己の成長や課題に気付いて、学習を調整する。

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 伊勢丘小 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力(%) 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力(%) 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	主体的に学び続け、協働的・創造的に活動する児童の育成	★	新規	一人一人の児童が、「わかる・できる・もっとやりたい」と意欲的に探究し、周りの人々と協働しながら挑戦し続ける教育活動の実現 (その他の評価指標) ・学びの伸びを把握する調査結果	◆単元デザインを活用し、多様な学びを目指した授業等を交流する。 (いつでも授業を「見る、見る、見せる」)	○授業研修学期1回 ○児童の肯定的評価80%以上 ・「わかる・できる・もっとやりたい」と思う ・自分で計画を立て、学習を進めることができた	□授業動画を活用し授業研修を実施 □児童の肯定的評価89% 端末を活用し、いつでも授業を見せ合うことができた。さらに、授業改善を日常化する必要がある。 児童がめあてを持って、家庭学習を実施し、児童自ら学びを調整することができるようになってきている。	3	3	・全国学力学習状況調査の結果を踏まえ、校内研修の内容や方法が改善する。 ・やってみようカードの改善と取組の交流を実施する。	□児童の肯定的評価91% ◎全国学力学習状況調査や学びの伸びを把握する調査の結果から、児童のつますきに焦点を当てた評価課題を作成し、重点課題の改善に向けた授業づくりを行った。また、教師の指導を振り返り、課題を交流することで、指導方法の改善につなげた。これらの取り組みの結果、主体的に学ぶ児童や疑問を出し合い深め合う姿が見られるようになった。今後は、これらの活動を継続して行うとともに、児童のつますきをさらに分析していく必要がある。 ◎高学年では、やってみようカードを利用して、家庭学習で予習に取り組む児童が増えてきた。	3	3	3	・学力テストや評価問題から、児童のつますきを分析し、課題を明確にすると共に、その結果を生かした継続的な授業づくりや、学級間・学年間での授業交流を行っていく。 ・発達段階に応じてやってみようカードを工夫し、系統性を持たせながら自己調整できる力をつけていく。
					◆児童が「自分・学校・地域をより良くする」リアルな取組の場を設定する。	○児童の肯定的評価85%以上 ・自分で考え、挑戦した ・やり遂げた ・自分や他の人の良さに気付いた	□児童の肯定的評価挑戦・達成89% □自他の良さへの気付き93% 友達の良さを見つける取組を新たに設け、友達の良さやがんばりに目を向けることができた。 今後、自己の良さや変容を実感できるような取組を。	3	3	・目標を持って取り組み振り返る場を継続して設定する。 ・行事等の目的を児童と共有し、児童のがんばりをサポートして自己肯定感を高める	□児童の肯定的評価 ・挑戦・達成94% ・学びの伸び「自分にはよいところがある」58.1% ・自他の良さへの気付き95% ◎ミュージックフェスティバルや伊勢リンピックなどの行事で、目標をもたせ振り返らせたり、週に1度のうさぎタイムで、自分や友達のよさを認めたりすることができた。目標達成を繰り返すことで児童自身が自信をもって次の活動に主体的に取り組む姿が多く見られるようになった。また、自己肯定感の高まりが、周りと信頼しながら児童同士で協力して物事に取り組む姿として見られた。	3	3	3	・児童自身でPDCAサイクルを回せるよう、行事毎にめあてを持たせて振り返らせる取り組みを引き続き行っていく。 ・自己肯定感を高めることができるよう、友達同士が認められる取組みをしたり、教師自身も児童のがんばりを価値づける場を設けたりする。

				<p>◆児童自らが、健康・体力を高めるための目標を決め、取組方法を改善していく学びをつくる。</p>	<p>○児童の肯定的評価 80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を決め、健康・体力づくりに取り組んだ <p>○体力テストの記録を伸ばした児童 80%以上</p>	<p>□児童の肯定的評価 96%</p> <p>□体力テストから、長座体前屈に課題がみられた。運動会の代わりとなる伊勢オリンピックを児童とともに企画・実施した。感染症対策を踏まえ競技を工夫したり、目標を決めて練習したりする活動から運動への意欲が高まった。体力テストの課題を踏まえた取組を実施する。</p>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修を実施する。 ・ICTを活用し、個々の目標にそった体力づくりをする。 ・伊勢丘ストレッチを実施する。 	<p>□児童の肯定的評価 92%</p> <p>◎授業の中でスモールステップで立てた目標を達成できるよう工夫して取組を進めることができた。教員の実施をした振り返りができていなかった。</p> <p>□体力テストの記録を伸ばした児童75%</p> <p>毎朝、伸びている所や呼吸を意識したストレッチを全校で実施したり、家庭学習に取り入れられたりすることができた。</p> <p>□長座体前屈の再測定の結果、全校の平均で5、2cmの伸ばすことができ、家庭学習でのストレッチや朝のストレッチの効果が表れた。特に、苦手の児童の伸びが大きかった。</p>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体力に合った目標を決め、達成に向けて取り組むことができるような行事や授業内容を工夫する。 ・体力向上に向けて、課題となる運動につながる体力づくりを、継続的に実施していく。
2	信頼される学校づくりの推進	継続	子供、保護者・地域、教職員の笑顔と感動の実現	<p>◆「挑戦、協働」をキーワードに、教職員一人一人が、課題解決に向け取り組む。</p>	<p>○肯定的評価95%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の学校が楽しい ・保護者の満足度 ・教職員のやりがい 	<p>□肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が楽しい 83.3% ・保護者の満足度 98.6% ・教職員のやりがい 100% <p>通信やクラスルーム等を利用して、学校の様子を具体的に伝えた。児童の満足感や達成感につながる取組をさらに工夫する必要がある。</p>	3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の達成感が得られるような授業や行事を実施し、発信する。 ・学びファイルや端末を利用して家庭と連携する。 	<p>◎保護者や地域と対面で行う教育活動は、十分実施できなかったが、通信や端末での配信や記録により学校の様子を伝えることができた。また、学習したことをもとに、学校や地域のためになるような企画を考え発信することができた。</p> <p>□肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が楽しい94% ・保護者の満足度97.4% ・職員のやりがい100% 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も定期的に今日徳活動の様子を地域・保護者に知らせるとともに、地域人材を活用した教育内容を計画し、保護者・地域が一体となって学校づくりを推進していく。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。